

貿易・投資のプロ集団としての AIBA 法人協会の更なる発展を求めて 理事長 澤田 敬之

平成6年に第1回輸入ビジネスアドバイザー試験が実施され118名合格し、平成8年第1期・2期生でAIBAが創設されて10年が経過し、本年は11期生6名を迎えることになりました。この間毎年会員の増加がありましたが、昨年の354名をピークとして会員数は、本年初めて減少し現在340名です。これは受験者の減少、合格者の減少がAIBA入会者の減少となり、加えて1期生を中心に資格返上を主因とする退会者が21名出たことによるものです。

事業案件の推進と参加者の拡大へ

この10年間、AIBA事業の最大の発注元であるジェトロが独立行政法人へ移行したことによるアドバイザー制度への取組みに対する微妙な変化が見られるものの、ジェトロからAIBAへの期待は益々増大し、AIBA会員の事業参加への機会が増加して来ています。

ジェトロ案件として「貿易投資相談Q&A」の更新作業「貿易実務オンライン講座」受講者質問への回答業務 新規案件「大型対日進出事業評価作業」の短時日による納品等についてジェトロからはAIBAの実力を高く評価されています。網谷理事(前専務理事)をリーダーとする事業推進グループに今後の事業推進の一層の拡大を期待したいと思います。

然しながら会員からの声高な仕事の確保に対する要請がある反面、案件参加者が依然として一部の会員に偏重していることも事実です。本年の退会者の多くが結局AIBA活動に殆ど参加されないまま退会されたことは、AIBAの真の意味での存在意義を理解されなかった結果ではなかったかと残念です。AIBAを単なる仲良しクラブにせず、実務経験に基づく知的集団活動への多くの会員の皆さんの積極的参加を望みます。

ボランティア活動への参加要請

AIBA組織運営が月間1000円の会費をベースにプラス事業収益で賄われている現在、活動の大部分は依然として役員の皆さんのボランティア活動に負っている面が多く、会員の増加に伴い、ここ数年その限界と対策を訴え続けて来ました。然しながらボランティアとしての時間的労務提供は別として、特定役員の自宅での事務処理量の増大、電話代等の個人負担が目立って来ました。

このような背景もあり2年毎の役員改選期に、自発的に手を挙げていただく会員がまだまだ少ないのが現状です(昨年、小河原理事、本年、寺尾理事)。会員の皆さんの役員就任を通じての会員活動活性化にご協力下さい。

AIBA 理事・監事(平成17年6月18日) *新任理事・監事

- 澤田 敬之(1期) 理事長・代表理事
(兼) 支部活動支援担当
- 大谷 巖(4期) 副理事長/会員活動活性化担当
- 釜塚 孝雄(4期) 専務理事・事務局長
- *井上 隆彦(1期) 理事 事務局担当
- *小河原 進(6期) 理事 事務局担当
- 網谷 昭寛(1期) 理事 事業推進グループ
- 足立 葉一(3期) 理事 事業推進グループ
- *寺尾 邦彦(5期) 理事 事業推進グループ
- 古賀 昭弘(2期) 理事 パブリシティグループ
- 橋本 浩一(7期) 理事 パブリシティグループ
- *川村 慎吾(9期) 理事 会員活動活性化グループ
- 鈴木 繁雄(4期) 理事 北日本支部長
- 中川 善博(1期) 理事 東海支部長
- *小堀景一郎(5期) 理事 関西支部長
- 近藤 昭道(1期) 理事 中国四国支部長
- *清田 哲司(5期) 理事 九州支部長
- 野本 功司(1期) 監事
- *岩田 英昭(5期) 監事

Contents (目次)

P1...	貿易・投資のプロ集団としての AIBA法人協会の更なる発展を求めて	澤田 敬之
P2...	税関の事後調査について	森岡 和博
P3...	「今年か、来年か、再来年か、それ以降か、それが問題だ」 信用状統一規則改訂問題の行方	井上 隆彦
P4...	サプライズ! を避ける 貿易指数と会員数	岡村 亮 永野 靖夫

P5...	ホームページ物語 次世代型中型民間旅客機について	渡辺 肇幸 寺尾 邦彦
P6...	中国料理大好き人間	片本 善清
P7...	支部活動	
P8...	首都圏地区勉強会、首都圏地区WTC関連講演会研究会 アドバイザーの活動	
P10...	会員異動	
P11...	新入会員、退会会員、アドバイザーの現況	
P12...	役員往来、編集後記	

AIBA事務局強化と専用事務所の確保

本年は専務理事に加えて事務局担当理事を2名増加して3名体制とし、事務局関連業務処理の合理化と迅速化を図ることとしました。

又、長年の懸案のまま予算との兼ね合いで放置されてきた専用の事務所の確保についても事務局強化との関連もあり、本年は前向きに進めることとしております。東京都心部での最適物件の確保は困難が予想されますが、東京地区会員の皆さんによる物件発掘に是非ご協力ください。

AIBA 統一ロゴの確定と活用

本年1月「AIBA」とロゴの商標権を出願済みですが、色調については会員投票の結果を参考にして朱赤が濃紺かを決定し、ロゴの使用拡大を図ります。既にホームページ、「AIBAだより」で使用を始めていますが、ロゴ入りの会員共通デザインの名刺等も目下検討中です。

新執行部体制発足

本年は協会定款に基づき監事2名（任期4年）を除く15名理事全員が任期満了となり、会員総会にて理事1名増員16名（支部長理事5名を含む）が選出され、会員歴の若い理事の積極的登用を図り6名の新任理事が就任されました。新体制は前頁の表をご参照ください。

貿易・投資実務のプロ集団としてのプライド

中小企業の国際化が進み、貿易・投資相談に関する相談増加は必至であり、信頼できるAIBA会員の活動範囲は益々拡大してゆくことは確実です、貿易・投資実務のプロとしてのプライドを持って更なる飛躍を遂げましょう。

税関の事後調査について

森岡 和博（千葉 #212）

1. はじめに

今年1月のAIBA首都圏勉強会にて、本テーマにてお話しする機会を頂き、概要をご説明申し上げました。その話の内容と重複する部分もございますが、勉強会に参加できなかった会員の皆さんのご参考になればという想いから投稿させて頂きました。

2. 最近の税関の事後調査の対象輸入者

最近、私が勤務している会社の関係子会社にも税関の立ち入り事後調査が実施されました。近年は、中小企業も中国等アジアの国々からの輸入がますます増加傾向にあることを背景に、これら輸入者が法律に従った適正な輸入手続きを行う様、指導目的からも中小企業への立ち

入り調査が増えてくるものと考えられます。

従って、今後中小企業からの税関事後調査に関する問い合わせも増えてくるのではないかと思います。

3. 法律の改正

平成16年度の関税法改正において、税関における水際取り締まりを強化しつつ、輸入通関手続きの一層の迅速化を図る観点から、法人である輸入申告者（業として輸入を行う個人を含む）について、輸入帳簿類の保存が義務づけられ、保存すべき書類の明確化が図られました。

立ち入り調査に際しては、まず必要書類がきちんと整理保管されていることが前提条件であり、書類の保管レベルがその輸入申告者の管理レベルの指標として評価されますので、日頃より細心の注意をはらって書類を保管しておくことが重要です。

4. 保存すべき書類とその保存期間

具体的には、次のような帳簿および書類の保存が義務づけられました。

1) 輸入帳簿 - 関税法94条（平成16年10月施行）

- ・記載事項：品名、数量、価格、海外輸出者名称、輸入許可年月日、許可番号
- ・保存期間：輸入許可の翌日から起算して7年間

2) 輸入関連書類 関税法施行令第83条、関税基本通達94-1

- ・書類の種類：
総勘定元帳、振替伝票、海外送金伝票等経理帳票類、輸入通関書類、輸入許可貨物の契約書、運賃明細書、保険料明細書、梱包明細書、価格表、海外輸出者との取引に関する通信文書
- ・保存期間：輸入許可の翌日から5年間

3) 輸入に係わる無償支給の輸出関連書類

（海外メーカーに無償で支給した部品、材料、木型等で製造された製品が輸入される場合） 関税法施行令第83条、関税基本通達94-1

- ・書類の種類：輸出インボイス、輸出申告書、輸通通関業者請求書写し、海上保険料確証等
- ・保存期間：5年間

4) 輸入申告許可書類 - 消費税法

- ・書類の種類：輸入（納税）申告書・蔵（移）入承認申請控、納付書・領収書、輸入許可通知書の原本
- ・保存期間：7年間
通常、原紙は別に一括保管し、写しを上記2)の部分で注文書ファイルと一緒に保管し、事後調査の時に調査官に提示する。

5. 事後調査のチェックポイントと日頃からの注意点

調査に当たっては、取引の概要の聴取を受けるとともに主として以下のポイントについて確認されます。

輸入通関業者から通関費用の請求書と一緒に輸入通関書類を受領したら、以下ポイントをチェックし、必要に応じて通関業者に修正申告を指示することが必要です。

<チェックポイント>

輸入申告価格	輸入申告価格と他の金額に食い違いはないか	次の金額と照合して正しい額で申告されているか 発注金額（注文書の金額） インボイス金額（頭金払いがある場合、分割払いインボイス価格で申告していないか） 海外送金額（追加仕様、輸出国での諸掛分等の追加送金をしていないか）
個別評価申告	無償支給材料・部品・海外で作成された図面その他費用（運賃、梱包費用）が評価されているか	・無償支給分の価格が海外輸出者からのインボイス価格に加算して輸入申告されているか ・海外メーカーで作成された図面（国内での作成分は除く）無償支給した場合にも加算して輸入申告しているか
	無償貸与設備・治工具・木型・金型等が評価されているか	・無償貸与分の価格がインボイス価格に加算して輸入申告されているか ・或いはすでに、先の輸入分で一括評価申告済みであることを確認したか
	使用制限付きによる値引き分が評価されているか	・展示会用等で特別値引きされている場合は、通常の利用制限のない場合の価格に修正して輸入申告しているか
	海外での開発費用が評価されているか	・海外メーカーとの開発委託契約による試作品を輸入する場合、輸入申告価格が、ハード部分の価格に海外での開発費が加算されたものになっているか
	無償輸入品の価格が正しい金額で輸入申告されているか	・無償といえどもそのものに価値はあるので、本来の金額で輸入申告しなければならない。例えば、無償代品の輸入も、有償ベースの価格と同額で輸入申告されているか

6. おわりに

輸入申告に関する最終責任は、輸入申告者自身にあります。

通関業者に全てお任せではいけません。例えば、海外メーカーに部品等を無償支給して、それを使用した製品を輸入する場合は、輸入製品に係わる部品の無償支給があることを輸入通関業者に輸入申告前にきちんと伝えなければ、輸入通関業者は、海外メーカーのインボイス金額のまま申告してしまい、無償支給品が輸入の加算評価申告から漏れてしまうこととなります。アドバイザーの皆様におかれましても、この点について十分ご認識頂き、日々のアドバイス活動に生かしていただければ幸いです。

「今年か、来年か、再来年か、それ以降か、それが問題だ」
信用状統一規則改訂問題の行方
井上 隆彦（東京 #12）

“ 2005, 2006, 2007 or beyond - that is the question ” と ICCの作業部会（the UCP Drafting Group）は、やきもきしています【注】。と言うのも、某筋からの「改訂作業は最終段階」とのコメントに戦慄が走った、と言うが、どうも、そうではないらしいからです。過去10年ごとに改訂されてきた信用状統一規則の改訂は、2003年には間に合わず、改訂後の出版物番号（UCP600）だけが決定しているだけですが、改訂作業は目下進行中とのことは周知の事実です。では「現在どのような状態であるのか」と言う情報は、あまり知られていない。と言うのも、ICC作業部会の厳重な緘口令により、関係者：Consulting Group（41 members from 26 countries）等は、情報開示

を禁じられているからです。この辺の事情は、新堀聰日本大学名誉教授がコメントしておられます。【注】

さて、緘口令はともあれ、我々、ユーザーとしても改訂問題の行方は甚だ気になるところで、外野席の一員として見守っているのだが、ICCのニューズレター誌（DCI Vol.11 No.2 Spring 2005）に掲載されている記事から、ご参考までに、拾い読みしてみた。

すなわち、2003年にTask Forceを設置し、各国内委員会からの意見を集約、検討を開始し、ICC Opinion, Decisions, DOCDEXも含めて見直し作業に着手したが、各国内委員会の意見の大部分が「第9条、第13条、第14条、第21条、第23条、第37条および第48条に集中し、その他意見がないのが17カ条あった。」と言う。また、最終的には、URR525、ISP98およびe UCPは手を付けないことになったらしく、第一条のUCPの適用範囲に、スタンドバイ信用状参照は残らしい。

作業部会のミーティングはたびたび開催されていますが、例えば、定義等の言い換え問題で、各国内委員会に照会中として、次の3件を挙げています。

- (1) Force Majeure：現行UCPのまま残すのか、ISP98の定義に摺り合わせるのか検討中。
- (2) Reasonable Time：作業部会は、6銀行営業日を推薦したが、反対が多いので検討中。
- (3) Non-Documentary Conditions：各国内委員会は、圧倒的に無視すべきとの意見が多い。

また、改訂作業の過程において大きく取り上げられているのが、現行のISBP【注】の内容で、「改訂後の条文にどのように反映させるべきか、また、反映させるべきでないか」と言うことが重大な関心事となっているらしい。この点で、Drafting Groupでは、ISBPからパラグラフを抜粋しそれらをUCPに移植することについて、ある限られた場合において避けることはできないのですが「意識的に避けるようにした」とのことです。ISBPのその他残りのパラグラフについても取り組まなければならないが、「特に、運送書類関係の素案作成には、しつこく悩まされそうだ。」と言っています。作業部会が受領したコメントは、数百通を超えており、簡単な作業でないことの理解を求めています。

さて6月にダブリンでICC Banking Commission（銀行技術実務委員会）が開催され、改訂中の条文についての各国内委員会の意見が提出されることになっています。DCI誌は、3ヵ月毎の季刊誌であるので、7月には最新号がリリースされると思われます。作業部会では、“ We will keep national committees and readers of DCInsight up-to-date as the revision progresses. ” と言っていますので、筆者もフォローしたい。乞うご期待です。

【注】“ Notes from the UCP Drafting Group ”
DCInsight Vol. 11 No.2 April-June 2005

【注】「(前略)最近、国際商業会議所（ICC）による1993年信用状統一規則（UCP500）の改定作業が始ま

り、各国の国内委員会による条文の検討が行われています。かかる検討の過程で、論文などでその議論の具体的な内容に触れることは、筆者<新堀氏のこと>もその議論に参加しているため、ルール違反となります。したがって、新しい規則(UCP600となる)が確定し、公式に発表されるまで、信用状統一規則とその周辺の補足規則を取り上げるのは、差し控えたい。UCP600が公表された後、信用状のユーザーの立場から、補足規則を含めてあらためて本誌「国際金融誌」で総合的な解説を試みるので、それまでお待ちいただきたい。なお、現在の作業状況から見て、UCP600が完成するまでには、少なくともあと一年はかかると思われる。」「国際金融」誌1139号17.2.1 p.57ご参照

【注】“International Standard Banking Practice (ISBP) for the examination of documents under documentary credits approved by the ICC Banking Commission” ICC Publication No.645 <荷為替信用状に基づく書類点検に関する国際標準銀行実務> (和訳は、2003年5月ICC日本委員会刊)

サプライズ! を避ける

岡村 亮 (千葉 #128)

皆さんのこれまでのビジネス経験の中で、次のような想定外の状況が突然出現し、それが業績に大きなマイナスの影響を与えたということはなかったでしょうか? 例えば、思ってもいかなかった新しい競合企業が市場に参入してきた、長い取引関係のある顧客から突然契約の打ち切りが通告された、あるいはこれまでパートナーとして提携関係にあった会社が競争相手に買収されたなど...

あるエレクトロニクス分野の日本企業の元役員から伺った話ですが、2~3年前の米国の情報通信業界の大崩壊で同社は会社が傾くほどの受注残のキャンセルを食らいました。しかし驚くべきことに、その直前まで、米国の販社からはバックオーダーを早く出荷しろと催促されていたとのこと。このようなビッグ・サプライズには何らかの兆候があったはずですが、もし市場の変化の兆候を普段からウォッチしていれば、大リストラの惨事に陥らずにすんだかも知れません。

昨今のように技術革新やグローバル化が加速し、また顧客ニーズと競争状況が急速に変化している中では、企業にとってこのような不意打ちを避ける方策がますます必要となってきたと考えます。年に一度の中期計画や戦略立案では、ビジネス環境の変化についていくことが困難になっています。戦略はむしろ日々の現場の中で、変化に応じた一連の意思決定をするべきだというのが、最近の戦略理論の主流になりつつあります。

企業を取り巻く外部環境、市場、競合、顧客などに関わる情報を日ごろから組織的・体系的に収集し、分析し、戦略に活かす枠組みは、コンペティティブ・インテリジ

エンス(CIと略す)として、欧米、特に米国では企業組織の中に定着しています。いうまでもなくCIの最大の目的は、前述のようなサプライズを避けることにあります。

このCIの分野で米国のMBAスクールのテキストとしても使われているStrategic and Competitive Analysisというビジネス書の翻訳に、昨年3人の共訳者の一人として悪戦苦闘して取り組みましたが、この5月ようやく出版の運びとなりました。アマゾンの書籍検索で「戦略と競争分析」、「コロナ社」と入れてみてください。詳しい内容の説明はアマゾンに譲るとして、この本のページ数は490ページ、重量はなんと1kg!あります。最近の小型パソコン並みですね。よほど物好きな方以外には、購入をお勧めしていませんが、いつか皆さんの目に触れる機会があれば幸いです。

貿易指数と会員数

永野 靖夫 (東京 #68)

総会でも報告がありましたが、我が会の会員数は創立以来初めて減少しました。即ち、昨年5月末の354名から本年5月末の340名へ14名の減少となったことはご承知の通りです。これは第1期生を中心に資格を喪失された方が12名おられたこと、又、第11期の合格者が少なく、従って我が会への入会者も少数に留まったこと...以上の二つが主な要因と考えられます。

我々第1期生は昨年2回目の資格更新をさせて戴いた訳ですが、これを辞退された方が資格を喪失されたこととなります。今まで苦勞を共にしてきた方々が退会されるのは寂しい限りですが、これも致し方ないことでしょう。10年一区切りと考えられたのかもしれませんが、辞められた方々の今後のご活躍とご健康を心よりお祈り致します。

さて、もう一つの要因ですが、これに直面したからといって、落胆される必要は全くないと思います。何故なら、本年2月の勉強会で申し上げたことですが、我々の生存領域である貿易分野は相変らず安定成長を続けているからです。

貿易指数をみてみましょう。平成12年度を100とすると、平成15年度のそれは輸出金額で102.5、数量で103.0、輸入金額では108.4、数量で107.1となっています。このように、率は低いものの、着実に安定成長を続けており、この傾向はこれからも続くものと確信致します。

以上は、量的な側面を見た場合ですが、質的にもこの分野はかなり変わってきています。今更言うまでもありませんが、インターネットの普及により、海外とのコミュニケーションが容易になりましたし、この分野の情報の入手も非常に簡単になりました。例えば、我々がお手伝いしているジェトロのJ-FILEなどは、一昔前では考えられぬことであり、あれだけの情報は、以前は大商社でも入手が難しかったと思われる。

このような変化に伴い、この分野に参入してくる方の意識も明らかに変化してきています。従前であれば、貿易に参入しようとした場合、まず、商社に頼ろうとしましたが、今は自力で参入するのが当たり前となっています。しかしながら、傍から見ていて、危なっかしい場面も散見されるのも事実でしょう。翻って、私は、ここに、我々の活躍の場が以前にも増して与えられていると確信します。この変化をどう商売として捉えてゆか、各自に課せられた課題と言えるでしょう。

ホームページ物語

渡辺 肇幸 (千葉 #115)

当協会員でホームページを以前から持っておられる方も多く、私も何とか早く作りたいものだと思いながら、数年たってしまいました。野本さん、重松さん、永野さん、小林さんほかのホームページを見ながら、近いうちに自分もと思いながら、作りかけては放り出しという状態が数年続いた次第です。

ところで昨年12月11日朝日新聞に「ブログサービスの選び方」というタイトルで、ブログによる簡単なホームページの作り方という記事が出ました。当時和文Q&A事業で夜昼なく、土日なく、超多忙な時期でしたが、今度こそと思って挑戦しました。記事で推薦されている数社から、gooブログ (NTTレゾナント) を選び、そのホームページにアクセスし、マニュアルに従って作り始めました。無料だし、うまく行かなければまた放り出せばよいと思ってとりあえず、始めました。結果的には2時間ほどで、どうやら作ることができました。

1. この間、考え込んだのは下記2点です。

(1) ホームページの名前

どういう名前をつけるか全く考えておらず、「名前をつけてください」と画面に出たときには考え込んでしまいましたが、近くの手賀沼にちなみ「手賀沼日記」としました。

(2) URL名

これはそれなりに考えていたのですが、これはと言う名前は既に利用されており、goo側から提案のあった http://blog.goo.ne.jp/watanabe_march という平凡なものにならざるを得ませんでした。

2. 内容について

仏作って魂入れずと言われぬよう、国際ビジネス (貿易と投資) ウォーキング、オーディオ それぞれ三分の一をめどとすることにしました。しかしながら実際に国際ビジネス関係が圧倒的に多く、ついでウォーキング、オーディオにいたってはわずかとなりました。写真や図面を掲載し、楽しいものにしたいとは思っていますが、なかなか手が回らず、文章のみの硬いものになっており、わざわざ読んでくれる人もあまりありません。見に来てくれる人はどうやら同業者やプロが多いようです。

これからは国際ビジネスに偏らず、ウォーキングやオーディオ関連記事も充実させてゆきたいと考えています。

次世代型中型民間旅客機について

寺尾 邦彦 (東京 #270)

前号の「超大型航空機の話」の中で、欧州・エアバス社の超大型機「A380」(555席機、最大800人超の搭乗可能) について述べましたが、その続編として、最近、航空業界で注目されている次世代型中型民間旅客機の動向について紹介します (業界情報などに基づき、まとめました)。

1. 世界の民間航空機分野は、リージョナル機 (地域間輸送用の小型機) メーカーを除くと、ボーイング (米国) とエアバスの寡占状態にあり、両社は激しいマーケット・シェア競争を展開しています。この2~3年はエアバスの方が受注機数、納入機数ともに優勢です (今年は若干逆転)。

A380機は本年4月下旬、試験飛行に成功し、6月中旬に開催されたパリ・エアショーで一般に披露されました。

従来、ボーイングが独占していた大型機分野に攻勢をかける動きだと話題を呼んでいます。

一方、ボーイングは次世代型中型機「B787」(200~250席級の双発機) を開発し、“Dreamliner” のニックネームを付けて、拡販中です。

2. これまで両社は、ほぼ同時期に、同じカテゴリーの新型機を開発・生産して競争してきましたが、最近、両社間には、今後の中長期的市場予測に基づく明確なコンセプトの違いが見られます。即ち、大手エアラインの保有機運航の考え方が“Hub and spoke operation” (*) 志向であることに呼応して、ボーイングは従来、メニューの中で、ジャンボ機で代表される大型機を重視してきましたが、同社は将来の機種として「中型機」需要の増加を見込み、需要創出を図っています。

[注] (*) 大規模拠点空港を軸 (中心) として、放射状にルート (空路) を広げるネットワーク展開。エアライン側から見ると大量輸送による経済効果があるが、旅客にとっては、乗り継ぎが多くなり、不便な面があります。

最近、経済性に優れ、長い航続距離を持つ中・小型機の導入が増加し、エアラインの路線展開が“point to point” (2地点間直行運航) 方式にシフトしていることが背景にあります。例えば、500人を1便で運ぶよりも、250人ずつを2便に分散して輸送する方が、乗り継ぎ回数も減り、利便性や経済性が図られ、増加する旅客を吸収できるという考え方です。

3. ボーイングは、同機開発の発表当初「B7E7」(Eは効率性 “efficiency”) と呼称していました。2004年4月、わが国のANAが50機発注し、ローンチ・カスタマー (**)

になり、その後、JALを含め、世界の21社から合計266機受注しています(6月現在)

[注](**) Launch customer: 機体メーカーが新しい航空機を開発した際、最初に発注して機体の生産計画に踏み切らせる顧客(エアライン)のこと。

ANAは、羽田空港再拡張時期を睨み、2008年以降のB767の代替・新型機として導入。

4. B787には3タイプあり、標準型の「8」(220席)は航続距離が15,700Km、巡航速度がマッハ0.85、燃料消費量が20%向上という特徴があり、搭載エンジンは英国ロールス・ロイスTrent1000または米国GE製のいずれから選ばれます。エンジン開発には日本もRSP(Risk and Revenue Sharing Partnership、リスク・収益分担)方式で参画しています。

主翼や胴体の生産には、日本の機体メーカー3社が35%の分担比率で参画します。特筆すべき点は、同機の機体構造材料の約50%には炭素繊維系複合材料(CFRP)が使用され、軽量化や耐久性向上が図られることです(CFRPの比重は鉄の1/4、単位重量当りの強度は10倍)。因みに、従来、機体の構造材料にはアルミ合金が多く使用されましたが(B747では約80%、B777では70%)、B787では20%程度にまで低下し、代わりに複合材料の比率が大幅に増加しています。複合材の素材は東レほか日本メーカーが高いシェアで供給しており、これらを含め、世界の民間航空機産業におけるわが国の役割は大きくなって来ていると言えます。

中国料理大好き人間

片本 善清(奈良 #422)

(その一)

小生はもともと所謂中華料理はあまり好きでなかったのです。それというのも、小生は奈良県との県境に近い大阪府側の片田舎の山村で生まれ育ちました。おまけに戦前の生まれで、ちょうど育ち盛りの時期に食糧難という時代でした。従って元々野菜好きの田舎者で、自然と肉料理や油濃い料理などは好きでなかったのです。

ところが大学卒業・就職で、わが人生の環境が大きく変わりました。商社に就職し海外勤務が多く、しかもその地域が中国に集中するというハメになった訳です。

1965年から1968年に掛けて、一ヶ月や二ヶ月の長期出張が多くなり、中国料理が嫌いでは通らなくなり、食べないと生きて行けないという窮地に追い込まれ、しかも半年から一年という長期滞在を繰り返すうちに中国料理に慣れて来るようになり、徐々に好きになって来ました。

第一段階: 1960年代後半から1970年代前半

主として北京地域で当時私が好きだった料理屋と料理名

は次の通りです:

- 1) 新僑飯店6階の西洋料理食堂: ポルシチスープとビーフシチュー、特製ヨーグルトなど。
- 2) 豊澤園(当時北京での最高級の中華料理屋): 一人当たりRMB¥80~100(日本円1万~1万5千円)と高かった。料理はフカヒレスープぐらいしか覚えていません。
- 3) 東来順(王府井の東安市場): 回教徒ウィグル民族特有のジンギスカン鍋(羊肉のしゃぶしゃぶ)が専門で、味もよく値段も安くて頻繁に行った。特に冬場にピッタリ。
- 4) 晋陽飯荘: 山西省料理で、有名な料理は刀削麺(料理包丁でうどんを削る)で、これが極めて美味しい。日本のあんかけうどんのような味で麺もしっかり腰がありおいしい。あと銘酒は竹葉酒と五糧液が売り物でした。
- 5) 康樂飯荘: 山東料理。名物はおこげ料理と鶏油シルそば(煮えたぎったスープの中に生肉・なま魚・肉だんこなどと麺と一緒に放り込み、しばらくして食べる。スープの表面は鶏油で防御され(保温され)少しの時間で具や麺がちょうど塩梅に煮えるのがみそ)。
- 6) 全聚徳(前門外): 北京ダック専門店(本家本元発祥地)。鴨の丸焼きをメインにあひる肝の唐揚げ、脚の水かき部分のカラシ和えなど。
- 7) 四川飯荘: 長安大街の南側の四合院スタイルの四川料理専門店。雰囲気よく度々行った。私自身は辛いもの好きで、回鍋肉・麻婆豆腐など美味かった。
- 8) 坊膳(北海公園): 宮廷料理で有名で、当時我ら友好商社は中国の貿易会社の幹部を接待するのによく利用した。甘い綺麗に飾りつけしたお菓子類が頭に今も浮ぶ。切りがないのでこの辺で一段落とし筆を擱きます。

(その二)

第二段階: 1975年 1982年の香港駐在と1984-1987年の広州駐在時代

主として香港地域で、一部大陸・広州地区を含みます。

1) 四川樓: 香港島銅羅灣にある歴史古くて割と有名な四川料理の店。

小生にはわが家のような存在で、友あり・常連客ありで毎週一回ぐらいい通った店。毎度のメニューは決まっておろ、豚肉薄切り・貝柱大正エビ鉄板・蟻の樹登り・燻製鳩丸焼き・麻婆豆腐などで、料理が一ラウンドで最後に担担麺を各自の好みで辛さを調整します。お碗が小さいのでよく食べる人は2-3杯お代わりします。

そして酒はいつもブランディー(長頸白藍地)と決まっておりました。

2) 同興樓(灣仔): 山東料理の古い・きたない店だったが、味はよかった。

羊と牛のしゃぶしゃぶ・北京ダック・えびチリソース・肉料理のレタス包み・酢豚など。値段安くて味よく余り気張らない客の接待用として、よく利用しました。

3) 鋪記(香港島のセントラル石板街): この店は鷺鳥

の丸焼きが超有名で、この料理だけで大儲けし新しいビルまで建て今では店も大きく綺麗になっています。ガチョウの丸焼きは香港のみならず中国大陸まで名を馳せています。ただ値段極めて高いのでVIPの接待にしか使えませんでした。

4) 老正興(正統派上海料理)：銅羅湾とセントラルのクィーンズロードと二箇所にそれぞれ別の店があった。上海料理はわれら日本人には一番手ごろで人気がありました。

理由はまずメニューが豊富で且つ量が少ないので、ひとりだけでも簡単に食べられた。例えば上海焼きうどん一人前とか雪菜・豚肉糸切り汁そば一人前とか、一品だけのオーダーでお腹一杯となりました。経済的かつ便利でした。小生の好きな上海料理として、酔いカニ(上海蟹を老酒に漬けて季節はずれの時期に食べさせる・最高のつまみとなる)・扣肉(豚の角煮)・小籠包(スープ入り小型肉まん)・鉄板時魚など挙げられ、これらに紹興酒があれば尚美味しいというものです。

ついでに上海蟹について一言追記しますと、小さな蟹一匹がHK \$ 100~200と高くとても口にできません(当時HK \$ 1.00が¥60.-でしたので、一匹当たり¥6,000~12,000)。実際六年余の滞在期間中で口に出来なかったシーズンもありました。

広東料理について、次の料亭によく通ったものです。

広東と言えば春秋二回の交易会への参加から始まり、時代は1960年代後半から1980年代前半まで長い付き合いとなります。最もポピュラーなのは、回民飯店(羊肉しゃぶしゃぶ)・北園・南園・畔溪酒家(最高級の広東料理屋)・広州酒家(味よし。特に鶏料理に石斑魚などの海鮮料理が美味しい)・大同酒家(珠江沿いのビル6階、眺めよく料理は上品な点心類が中心で日本人向き)・野味香(ゲテモノ専門で、犬、熊、猿脳みそ、蛇、カエルなど)等等。後追記は東方賓館(旧称：羊城賓館)の翠園(早朝の飲茶)と花園レストラン(西館の中庭向きの中華料理)の二つを挙げたい。1984-1987年の四年間で、特に後者は我家の食堂の如く連日昼夜二度は世話になりました。

(その三)

第三段階：1994年から1998年の二回目の香港駐在時代

この時期にも前述の四川楼がまだ健在で、懐かしの老板小姐や伙記(ボーイのこと)も以前のままで、いつも昔どりのメニューで料理を楽しませてくれました。一方香港自体も大幅に変わりました。銅羅湾繁華街も大変化で、銅羅湾広場第一・同広場第二、時代広場Times Square、Lee Garden界限(ホテルがなくなり、新しい商業ビルが出来て、近辺様相一変した) 崇光百貨店(日本そごうデパート)など続々新しいショッピング中心や食街などができました。中華料理の新しい店も続々開店

しました。北京楼(翠園)・滬江飯店(上海料理)・環球酒樓(潮州料理)・魚翅城(フカヒレスープ専門店)等等。その他、韓国料理の焼肉やベトナム料理の高級店なども続々と出来てきています。

特記として、古くは1970年代中ごろの海鮮料理屋は、アパディーン(アパディーン)の船上レストラン以外に、当時穴場であった鯉魚門から端を発し、現在では九龍東海岸線沿いのGold Coast や西貢地区の海鮮料理屋も益々盛んであります。まず客人がエビ・蟹・伊勢えび・石斑魚などの活魚などを好きに選んで買い、そして料理部門に客人の好きなように料理させて食べるスタイルで魚好きの日本人には好評です。これが原料費と加工賃ともに安いので更に人気上昇となります。

結び

中国料理は、古くから中国人の開拓精神の賜物か？世界中に普及していますが、小生の個人的な意見は香港の中華料理が一番美味しく、次いで台湾、その次が大陸中国と続くと思います。現在の中国の大発展ぶりから見ますと、第二と第三は同水準になっているかも知れません。これがわが輩の結論となりますが、元々嫌いな中国料理がなぜ大好きになったか今現在も不思議に思います。

支部活動(2005年4月以降)

東海支部

平成17年4月16日 例会

(1) 講演 「知的財産について」

講師 安東英典 関西支部会員(#310)

(2) 「岐阜県でのアドバイザー引き受け依頼」

依頼者 ジェトロ岐阜水野所長代理 殿

平成17年6月25日 例会

中部国際空港見学

(航空会社、運送会社の設備等、貿易貨物の取り扱いなど見学)

中国四国支部

AIBA中国四国支部総会が2005年5月7日にAIBA理事長の澤田氏の参加を得て広島市鯉城会館にて開催された。

中国四国支部の参加者は以下の通り

近藤昭道、澤田圭介、三石義明、坂戸英教、貫洞孝彦、小西勝巳、黒田清広、宮内茂喜、滝澤富一、前田真典(在籍17名中10名出席)

・支部会計決算が報告され承認された。

・役員の変更が行われ、満場一致で支部長には近藤昭道氏が再選された。

続いて 副支部長(広島地区担当) 澤田圭介氏

〃 (愛媛地区担当) 黒田清広氏

〃 (岡山地区担当) 滝澤富一氏

が選任された。

なお、会計監査には澤田圭介氏が兼任となった。

- ・東京から参加されたAIBA理事長の澤田氏から、AIBA本部の役員の改選等最近の動向について説明があった。
- ・来賓の広島修道大学の神田善弘先生より最近の話題である中国人民元の切り上げに関して、シュミレーションによる説明を交えた解説を頂いた。（前田 真典）

首都圏地区勉強会

平成17年4月23日（土）於：ジェットロ本部

講師：藤谷 護人氏（弁護士）

テーマ：「個人情報保護とSECURITY」

参加者：30名

平成17年5月14日（土）於：ジェットロ本部

講師：草野 英信 会員（埼玉 #231）

テーマ：「最近のロジスティック事情」

参加者：36名

首都圏地区WTC関連講演会・研究会（平成17年5月～6月）

1. WTC講演会

- ・134回（6月21日）

「環境と貿易、持続的な発展が求められているのは何か」

対日貿易投資交流促進協会理事長 山田 範保氏

2. アジアクラブ月例講演会

- ・300回（5月17日）

「最近のわが国の経済協力政策」

経済産業省経済協力課長 杉田 定大氏

- ・301回（6月23日）

「国境なき医師団とは」

国境なき医師団日本前会長 寺田 朗子氏

- ・アジアクラブ時局講演会（6月27日）

「最近の日中関係と米国の東アジア政策」

アメリカン大学国際関係学部教授 趙 全勝氏

3. ACF講座

- ・30回（7月14日）

「ウズベキスタン・アンディジャン事件にみる今日の中央アジア情勢」

東京大学東洋文化研究所助教授 ティムール・ダダバエフ氏

4. WTC Day 特別記念講演会（6月10日）

「アジア経済の展望と課題」

野村総合研究所顧問 千野 忠男氏

5. アジア国別研究会

- ・19回（6月3日）

「資源王国豪州の素顔とその動向」

ITOCHU Minerals & Energy of Australia Pty.Ltd.

社長 鉢村 剛氏

6. 先端技術産業調査会20周年公開シンポジウム（5月

18日）

「伝統文化と技術 共有文化に基づく東アジアの連携」

基調講演 首都大学東京学長 西沢 潤一氏

アドバイザーの活動

講演・講師

1. 井上 隆彦（東京 #12）

平成17年6月3日

ジェットロ諏訪支所主催

「貿易取引の代金決済」

場所：長野県諏訪市 ホテル「紅や」

2. 澤田 敬之（東京 #43）

平成17年3月17日 米国 ラスベガス市

フルードパワー統計整合化委員会及びサミット会議

「わが国のフルードパワー産業の現況と将来展望」

平成17年4月13日 ドイツ ハノーバー市

フルードパワーサミット会議

「わが国のフルードパワー産業の現況分析と2005年予測」

3. 清水 正明（埼玉 #47）

平成17年7月8日

島根県しまね産業財団主催

貿易実務研修会

「輸出入ロールプレー」

平成17年7月21日

国際経済交流企業組合主催

貿易実務講座（基礎講座）

「東京港湾施設見学」

4. 永野 靖夫（東京 #68）

平成17年5月24日

栃木県商工労働観光部主催

「輸出実務入門」

場所：とちぎ産業交流センター 大研修室

平成17年6月7日

栃木県商工労働観光部主催

「輸入実務入門」

場所：とちぎ産業交流センター 大研修室

5. 野本 功司（東京 #76）

平成17年5月26日

ミプロ（対日貿易投資交流促進協会）

小口輸入セミナー

「小口輸入のすすめ」 - アクティブビジネス、一

つの提案一

場所：サンシャイン・シティー、ワールド・イン
ポート・マートビル6階ホール

相談・アドバイス

6. 岡村 亮 (千葉 #128)

平成17年4月19日

國學院大學経済学部 特別講座 現代の企業経営
「ビジネス環境の変化と経営戦略」

場所：國學院大學 たまプラーザキャンパス

7. 大谷 巖 (千葉 #224)

日本繊維輸入組合主催 貿易実務研修会

日時：場所

平成17年6月3日 東京

平成17年6月8日 名古屋

平成17年6月9日 大阪

8. 勝田 英紀 (大阪 #227)

平成17年4月21日、22日

大阪税関主催

「中等科研修 貿易実務」

場所：大阪税関研修所

平成17年4月25日

独立行政法人 日本貿易保険 大阪支店主催

「貿易実務研修」

場所：独立行政法人 日本貿易保険 大阪支店

平成17年6月15日、22日、7月6日

ジェトロ京都情報デスク主催

「貿易セミナー 貿易実務講座」

場所：京都府産業支援センター 5階研修室

平成17年6月23日、24日、29日

日本経営協会主催

「これだけは知っておきたい貿易実務の基本」

場所：日本経営協会 関西本部

9. 清田 哲司 (熊本 #337)

ジェトロ熊本、熊本県貿易協会共催 貿易実務講座

日時：場所

平成17年1月18日 熊本県八代市

平成17年1月20日 同 玉名市

10. 池崎 元彦 (神奈川 #431)

平成17年6月17日、18日

(財)海外職業訓練協会主催

「グローバル人材育成プログラム」

場所：千葉市・同協会本部

平成17年6月28日

(財)海外職業訓練協会主催

「グローバル人材育成プログラム」

場所：大阪市・同協会大阪事務所

1. 石原 一 (愛知 #9)

平成17年5月25日

ジェトロ名古屋主催

貿易相談

場所：ジェトロ名古屋

2. 中川 善博 (三重 #67)

平成17年4月21日 5月19日 6月16日

ジェトロ三重主催

巡回貿易相談

場所：伊勢商工会議所 松阪市産業振興センター

平成17年4月15日 5月20日

ジェトロ三重主催

巡回貿易相談

場所：四日市商工会議所

平成17年5月6日

ジェトロ三重主催

巡回貿易相談

場所：四日市市 じばさん三重

平成17年4月27日

ジェトロ名古屋主催

貿易・投資相談

場所：ジェトロ名古屋

3. 藤原 孝一 (兵庫 #93)

平成17年4月14日

ジェトロ神戸主催

「国際ビジネス相談会」

場所：ジェトロ神戸

平成17年6月28日

ジェトロ神戸・三木商工会議所主催

「なんでも相談会」

場所：三木商工会議所

4. 清田 哲司 (熊本 #337)

平成17年6月21日

ジェトロ熊本主催

貿易相談

場所：ジェトロ熊本

5. 田中 尊雄 (愛知 #406)

平成17年4月20日

ジェトロ岐阜主催

貿易相談

場所：ジェトロ岐阜

平成17年6月22日

ジェトロ名古屋主催

貿易相談

場所：ジェット名古屋

「イタリアからのアパレル輸入」

会員異動（2005年4月以後、敬称略）

埼玉県海外取引アドバイザー制度による貿易相談

1. 清水 正明（埼玉 #47）
平成17年3月25日（さいたま市）
平成17年4月19日（さいたま市）
平成17年5月19日（さいたま市）
平成17年5月27日（さいたま市）
平成17年6月23日（さいたま市）

埼玉ビジネスサポートセンター相談員による貿易相談

1. 清水 正明（埼玉 #47）
平成17年4月19日（さいたま市）
平成17年5月24日（さいたま市）
平成17年6月13日（さいたま市）
平成17年6月30日（さいたま市）

執筆

1. 渡辺 肇幸（千葉 #115）
Wing21 いばらき6月号
「海外進出の留意事項 カントリーリスクにも目を向けよう」
2. 岡村 亮（千葉 #128）
平成17年6月17日
「戦略と競争分析」 - ビジネスの競争分析方法とテクニック
コロナ社
(Strategic and Competitive Analysisの共訳)
3. 深谷 良孝（埼玉 #162）
「もっと「稼げる」ホームページ最強宣伝術」
プロが教えるサイト集客の実践テクニック66"
細木 康裕 共著
4. 勝田 英紀（大阪 #227）
「格付に見るアジア経済危機が我が国企業の格付に与えた影響」
『日本貿易学会 年報』 第42号、平成17年3月
日本貿易学会
「格付機関ごとのアナウンスメント効果の比較」
『証券経済学会 年報』 第40号、平成17年7月
証券経済学会
5. 弓場 俊也（大阪 #415）
ジェットセンサー5月号 貿易・投資相談コーナー

個人情報保護の為、
削除しました。

個人情報保護の為、
削除しました。

新入会員 追加（2005年4月）

（#506）五百蔵 利彦（いおろい としひこ、千葉）
（#513）藤平 裕（ふじひら ゆたか、東京）

退会会員 追加（2005年3月31日付）

（#6）飯島 稔（資格喪失）
（#61）辻本 靖雄（資格喪失）
（#62）出口 修（資格喪失）
（#95）前田 健男（資格喪失）
（#141）小林 敬臣（資格喪失）
（#182）石川 愛子（自己都合）
（#239）白石 勝彦（自己都合・引退）
（#290）北見 義久（海外勤務長期化）
（#380）本島 成人（自己都合・引退）
（#450）山中 誠一（自己都合）
（#463）栗栖 明則（自己都合）
（#469）塩田 靖浩（自己都合）

アドバイザーの現況（H17年5月31日現在）

アドバイザー総数：458名

AIBA会員総数：340名（参加率：74.2%）

第1期	58名	（#1～#118）
第2期	32名	（#119～#179）
第3期	23名	（#180～#215）
第4期	36名	（#216～#264）
第5期	55名	（#265～#341）

第6期	19名	(#342~#368)
第7期	52名	(#369~#433)
第8期	17名	(#434~#453)
第9期	24名	(#454~#484)
第10期	18名	(#485~#504)
第11期	6名	(#505~#509)

うちAIBANETに309名加入(参加率:90.9%)

支部・地域別会員数

関東&周辺	198名	(58.2%)
北日本支部	15名	(4.4%)
東海支部	27名	(7.9%)
関西支部	57名	(16.8%)
中国四国支部	16名	(4.7%)
九州支部	21名	(6.2%)
海外駐在者*	6名	(1.8%)
合計	340名	(100.0%)

* 海外駐在会員(6名)(敬称略)

#163	福元雅英	(香港)	AIBANET加入
#234	小林公典	(豪州メルボルン)	加入
#253	日口正敏	(米国加州サクラメント)	加入
#356	白川泰正	(インド)	加入
#385	中根昌孝	(中国深圳市)	加入
#459	荻田浩三	(米国NC州ローリー市)	加入

打ちあわせ(専務理事、小河原・芝田事務局担当)

- 4月23日 第54回臨時理事会(出席理事9名、監事2名)
- 4月26日 オランダ協議会(JAPTA案件新スポンサー)
- 大東氏訪問(専務理事、小河原・芝田事務局担当)
- 5月7日 中国四国支部総会(広島市)
(理事長、近藤支部長出席)
- 5月13日 ジェトロ斉藤総括審議役訪問(専務理事、釜堀理事)
- 5月21日 関西支部総会(大阪市)(専務理事、花崎支部長出席)
- 5月28日 第55回定例理事会(出席理事14名 監事2名)
- 6月2日 ・ジェトロeラーニングFAQ見直し業務 初回打合せ(専務理事、釜堀理事)
・ジェトロ対日投資課「大型誘致案件事業評価」業務委託打合せ(専務理事、釜堀理事)
- 6月18日 第3回AIBA法人定時会員総会・交流会
新旧理事、監事21名出席
- 6月22日 ジェトロeラーニングFAQ見直し業務
専門委員会議(専務理事、網谷・井上・寺尾理事出席)
- 6月27日 パブリシティグループ打ちあわせ
(正・副理事長、専務理事、小河原、古賀、橋本各理事)
- 6月28日 ジェトロ対日投資課「事業評価」案件納品会議
(釜堀、網谷新旧専務理事)

役員往来(平成17年1月~6月)

- 1月5日 WTC新年互例会(理事長参加)
- 1月7日 ジェトロ貿易投資相談センター守部次長と面談
AIBA勉強会用会議室確保依頼(副理事長、専務理事、大谷理事)
- 1月11日 中国経産局、広島県商工労働部、ジェトロ
広島商工会議所新年挨拶(近藤支部長)
- 1月22日 AIBA首都圏新年会
- 1月25日 ジェトロ稲本センター長、守部次長訪問
AIBA会員の積極的活用策依頼(理事長、専務理事)
- 2月14日 第1回次期役員選出検討特別委員会(5人委)
(古賀、足立、大谷、釜堀、橋本各理事)
- 3月17日 第2回5人委員会(古賀、足立、大谷、釜堀、橋本各理事)
- 3月25日 ジェトロ/TTTPP登録企業との懇談会(専務理事出席)
- 3月26日 九州支部例会(鹿児島市)(専務理事出席)
- 4月4日 第3回5人委員会
(古賀、足立、大谷、釜堀、橋本各理事、専務理事、理事長)
- 4月6日 オランダ大使館訪問 JAPTA案件新年度計画

< 編集後記 >

前号にてご案内した、平成17年度AIBA定時会員総会が6月18日、東京・イイノビル内レストラン・キャッスルにて開催された。ジェトロ新事務所移転の余波を受け、従来、慣例となっていたジェトロ施設内での開催は見送られたが、全国の支部から会員が参集して報告事項および議案審議等が行われた。その後、記念講演に引続き交流会が行われ、平生直接話し合うことが少ない会員相互の親睦が図られた。北日本支部会員が大勢参加されたことが特筆される。

総会の詳細は、近くHPにアップするのでご覧いただきたい。

本号は原稿不足を嘆いたことが寄与、全て掲載させて頂けるかと困惑することとなった。が、多くの方々の玉稿を安易に没には出来ないので、掲載順を工夫するなど編集者冥利に尽きる作業を行えた。今後、テーマが貿易関連以外でもこれらと思われれる事柄、積極的に投稿されることを期待したい。

(S.O)